総合学習	「環境問題」を新聞記事から考える

【取り組みのねらい】

新聞に親しむ中で、地球温暖化をはじめとする世界の多様な環境問題や身近な地域の環境問題について、紙面から記事を見つけ出す力と、書かれている内容について考え、まとめる力を育成する。

【進め方】

(1) 始めるにあたり新聞について、自由に親しめる時間を設ける。
(2) 新聞を構成する紙面と記事の内容、天気予報、テレビ番組欄、広告、4コマ漫画、スポーツ記事、写真や見出し、リード文等について説明をする。
(3) 興味のある記事を見つけ出し、情報を読み取り、考える力を育てる。
(4) ゆっくりと読み、考え、伝え、対話をする中で気づく時間を大切にする。

〈課　題〉全員に配布された環境問題の記事の内容をまとめ、互いに自分の考えを対話を通して深めてみよう。

全火力発電にCO_2規制

米、温暖化で行動計画

新枠組み　中印と連携も

【ワシントン共同】オバマ米政権は25日、国内の全ての火力発電所に新たな二酸化炭素（CO_2）排出規制を導入するなどして、再生可能エネルギー利用や省エネを強化する一方、中国やインドと協力して国際的な温室効果ガス削減を進めるとする地球温暖化対策の行動計画を発表した。

オバマ政権がこれほど包括的な計画を示すのは2期目に入って初めて。全ての国が参加して2020年に始まる温暖化対策の新しい国際枠組みに向け、新興国とともに交渉をリードする狙いがある。

米国が積極姿勢を強める一方で、日本は東京電力福島第1原発事故の後遺症と政権交代で将来像が描けない状況。このままでは国際交渉から置き去りになる恐れもある。

計画では、大気浄化法に基づいて1期目に打ち出した新たに建設する火力発電所からのCO_2排出規制を、石炭火力など既存の発電所にも拡大、石炭からCO_2排出量が比較的少ない天然ガスへの燃料転換や、発電所でできるCO_2を地中に貯留する技術の実用化を促す。規制の実施時期は今後詰める。

また政府の土地や沿岸部での太陽光や風力発電事業を促進し、年までに再生可能エネルギーを倍増する。

国境を越えて環境技術を広めるため、貿易障壁をなくすことも提言。CO_2に加えて代替フロンやメタンなどの温室効果ガスの排出増が著しい中国やインドに技術を売り込む一方で、新興国と連携して新枠組みの制度づくりを有利に進める思惑も見える。

20

地球温暖化対策行動計画のポイント

- 全ての火力発電所を対象に二酸化炭素（CO_2）の排出基準を定める
- 2020年までに再生可能エネルギーを倍増。省エネも強化
- 温暖化に伴う海面上昇や洪水に適応するため道路など社会基盤を強化
- 中国やインドなどとも協力し、国際的な温暖化対策をリードする

平成25年（2013年）
6月26日（水曜日）朝刊

【注意点】

全体の記事を読み、重要な文章を見つけ出しながらラインを引く。ラインの付いた文をもとに要点をまとめるようにする。

1時間の授業中で行う場合は、あまり長くない記事を配布して行う。

まとめた記事の内容を、自分の言葉で友達に 伝え合うなど、対話の時間を設けると、より深い理解が得られる。

友達との話し合いで気づいたことを、できるだけ「短い言葉」で書くようにすると、さらに理解が深まる。

NIE（Newspaper in Education）授業

クラス		NO		氏　名	
年月日		テーマ			
新聞名		見出し 掲載日	「　　」 年　　月　　日（　　曜日）付		

記事の要点をまとめてみよう。

1 調べた記事の内容を自分の言葉で友達に伝えてみよう。
2 その記事について話し合ってみよう。
3 話し合いで気づいたことを下に短い言葉で書いてみよう。